

支え促す体験学習

愛媛大学 教育・学生支援機構
教職総合センター 講師 高橋平徳
takahashi.yoshinori.yc@ehime-u.ac.jp

配付資料2点

1. 授業スライド
2. ワークシート



はじめに「支え促す体験学習」

- 教員, 指導者は, 学生やスタッフが, より体験から学べるよう, **支え, 促す**立場である
 - 支える...機会提供, 計画, 準備, 調整する
 - 促す...説明, 発問, 助言, ファシリテート等を行う

→体験学習は学習者中心という大前提

※一生懸命計画・準備・実施するが, 学ぶのは学生, スタッフ(教え込むのではない)



プログラム概要

- 私たちは日々何かを体験し, それをもとに考え, 自分自身を作っています。皆様も1人の人間として体験を重ね, 今のあなたをつくられているでしょう。また, 教職員として, 学生やスタッフにも豊かな体験を与え成長してほしいと考えておられるでしょう。
- 体験学習とは具体的にどのようなもので, どのように実践していけばよいのでしょうか。その重要性を実感していながらも, いざ説明や実践となると, とまどわれるのではないのでしょうか。
- 本プログラムは, 「支え促す体験学習」として, より効果的に体験学習を行えるよう, 体験学習の基本的な考え方や, 具体的な支援の視点や方法をおさえることができる機会となるよう構成しています。体験学習の概念や過程, 成長を促しやすい体験, 体験学習を支援し促す方法などを, レクチャーとグループワークによって理解します。



このプログラムのねらい

より効果的に体験学習が行えるよう, 学生やスタッフの体験からの学習が支えられるよう,

- 体験学習の基本的な考え方や,
- 具体的な支援の視点や方法をおさえることができる機会になれば



到達目標

1. 体験学習の概念を説明できる
2. 体験学習の過程を説明できる
3. 成長を促しやすい体験を説明できる
4. 体験学習を支援し促す視点と方法を説明できる



5

内容と方法

1. 自己紹介とオリエンテーション
2. 体験学習について
 1. 体験って大事です
 2. 体験学習とは
 3. 成長を促しやすい体験
 4. 体験学習のしくみ: 省察がポイント
3. 体験学習を支え促すために
 1. 見守る・支援するという視点
 2. しっかり計画し、準備する
 3. ワーク: 体験学習の計画を立ててみましょう
 4. 考えを深める発問
4. まとめ



6

まず...

竹箸の作り方

1. 竹を縦に割る。箸を持つ方に節がくるようにすると折れにくくなる。木づちを使い節がある方を上にすれば割れやすい。
2. 箸2本分を想定し1の要領で割る。削るため多少太めに割ると良い。
3. ナイフで箸の形に荒削りする。膝の上でナイフをもつ手を固定し竹を動かすと削りやすい。
4. サンドペーパーで表面をなめらかにする。
5. 完成。

出所: 国立青少年教育推進機構HP <http://www.niye.go.jp/navi/handcraft/bamboo/>



7

少し足して...

1. 竹を縦に割る。箸を持つ方に節がくるようにすると折れにくくなる。木づちを使い節がある方を上にすれば割れやすい。
2. 箸2本分を想定し1の要領で割る。削るため多少太めに割ると良い。
3. ナイフで箸の形に荒削りする。膝の上でナイフをもつ手を固定し竹を動かすと削りやすい。
4. サンドペーパーで表面をなめらかにする。
5. 完成。 出所: 国立青少年教育推進機構HP <http://www.niye.go.jp/navi/handcraft/bamboo/>



8

ちょっとまとめると・・・

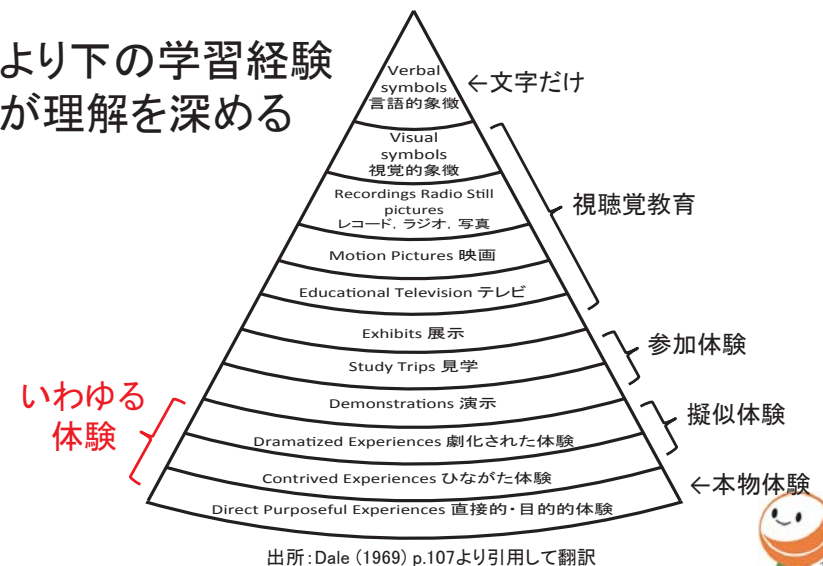
- 竹箸の作り方を文字で・・・よくわからん
 - 写真があれば少し理解が深まる
 - 動画や手本を見せてくれるとなるほどねと思う
 - (説明し合うと理解は増す(AL))
- 一般的に学校ではここまで
- 大きな壁———
- 実際に作ってみるとよくわかる(書いてある文字, 写真の意味がわかる)
- さらに壁———
- 教えてみるとより一層わかる(深い理解が必要)



9

デールの学習経験の円錐

- より下の学習経験が理解を深める



10

昔の人も言っている



荀子 B.C.313-238

「学は行うに至りて止む」

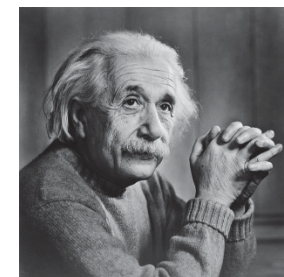
- 聞かざることは聞くことに如かず。聞くことは見ることに若かず。
- 見ることは知ることに若かず。知ることは行うことに若かず。学は行うに至りて止む。これを行えば明なり。
- 現代語訳: まだ聞かないことは聞いたことには及ばない。聞いたことは見たことには及ばない。見たことは理解したことには及ばない。知識として知っていることも実際に行うことに及ばない。学ぶということは実際に行うまでに至ってはじめて終わる。実際に行うことで物事ははっきり明らかになる。

出所: 荀子著, 金谷治訳『荀子』, 岩波書店, 1961.



11

アインシュタインも言っている



(Albert Einstein, 1879-1955)

「何かを学ぶためには、
自分で体験する以上に良い方法はない」

“The only source of knowledge is experience”

(出所: 『アインシュタイン150の言葉』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 1997.)



12

やってみるとよくわかる, できるようになる

やってみる: 体験してみる

- 知識: 頭に入る, 理解がより深くなる
- 技能: できるようになる, 助けがいらなくなる
- 態度: 心からそう思う, 行動・人柄が変わる

↑体験というものは知識, 技能, 態度の3領域全体に高めるもの



13

でも, やってみる機会が不足している

- つまり, 表面的な理解にとどまりがち
- 体験の不足→体験活動の必要性

体験活動の充実

「生命の有限性や自然の大切さ, 挑戦や他者との協働の重要性を**実感する**ための体験活動の充実(小中総則), 自然の中での集団宿泊体験活動や職場体験の重視(小中: 特別支援活動等)」

文部科学省「幼稚園教育要領, 小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」, 2017年3月.



14

実は普段から体験から学んでる

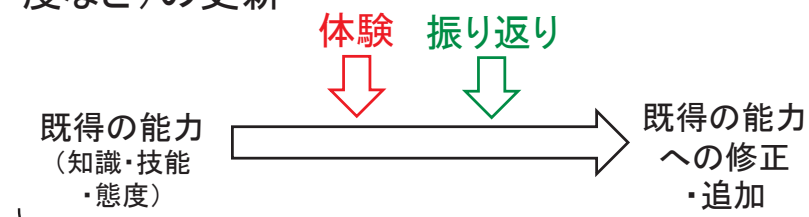
- 私たちは, 日々何かを体験し, それをもとに考え, 自分自身を作っている
 - 体験を通して実感していることは自信をもって話せる
 - 何度も体験して身につけたものは苦労なく上手に行える
 - ある体験によって自分を見つめ直すことで, 自分が全く変わることもある
 - 「あの時のこのことがなかったなら, 今の自分はない」と思えることもあるのでは



15

体験学習とは

- **体験**と**振り返り**を通した, 能力(知識, 技能, 態度など)の更新



- **体験**: 学習者にとって直接的で印象深く大きな影響を与える非日常な機会(実習やシミュレーション, 体験活動)
- **振り返り(リフレクション, 省察)**がなければ, 体験しても通りすぎ, 学習につながらない



16

成長を促す経験(一皮むけた経験)

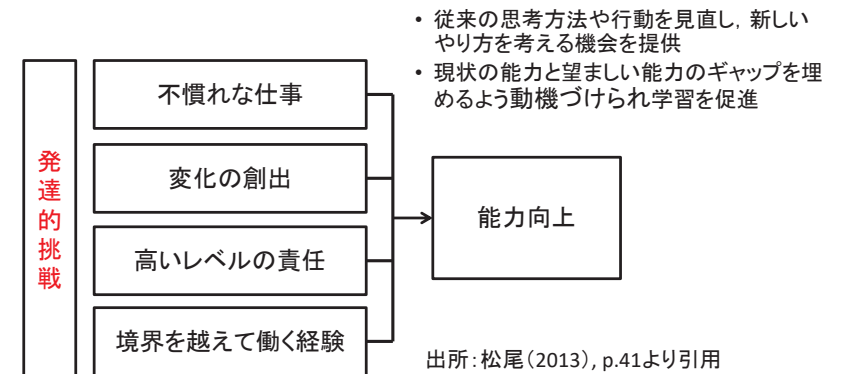
成長を促す経験(一皮むけた経験)			教訓
課題	初期の仕事経験	初期における非管理的業務	自信 独立心 知識 他者との関係性 タフネス
	最初の管理職経験	初めて他者を管理する	
	ゼロからのスタート	何もないところから何かを築き上げる	
	事業の立て直し	破綻している事業を立て直し、安定させる	
	プロジェクト/タスクフォース	プロジェクトを単独あるいはチームで実施する	
	スタッフへの異動	現場のラインからスタッフ職への異動	
苦難	管理範囲の拡大	管理する人数、予算、職域が増える	謙虚さ ものの見方
	仕事上の失敗	失敗したアイデアや取引	
	キャリア上の挫折	降格、昇進を逃す	
	できない部下の問題	業務に問題を抱える部下を担当する	
	キャリアの変更	新しいキャリアへの挑戦	
他者	個人的なトラウマ	離婚、病気、死などの個人的危機やトラウマ	価値観 社内政治
	上司からの学び	上司をロールモデルおよび反面教師として学ぶ	

出所: 松尾(2013), p.18より引用. McCall(1998), McCall et al.(1988)をもとに作成したもの



17

学びを促進する経験: 発達の挑戦

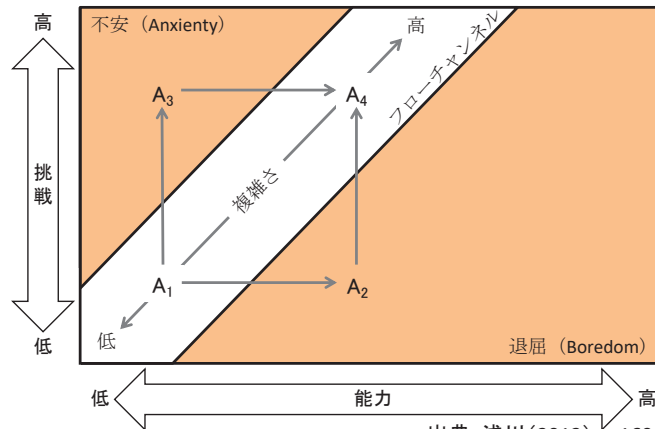


上記の次元の他に, McCauley et al.(1994)は「障害」の次元を, DeRue and Wellman (2009)は「多様性の管理」の次元を提示している



18

フロー(flow)体験



Mihaly Csikszentmihalyi

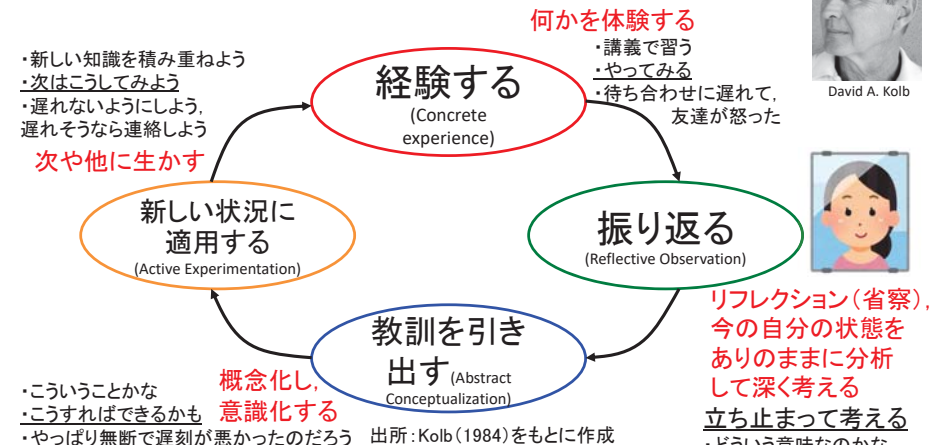
出典: 浅川(2012), p169より転載

- 能力と課題の難易度のバランスがとれた挑戦的な課題に、時間が経つのも忘れて没頭できる最適体験が継続された状態
- 難しすぎず、簡単すぎない少し挑戦的な体験を提供する必要性



19

コルブの経験学習サイクルモデル



David A. Kolb



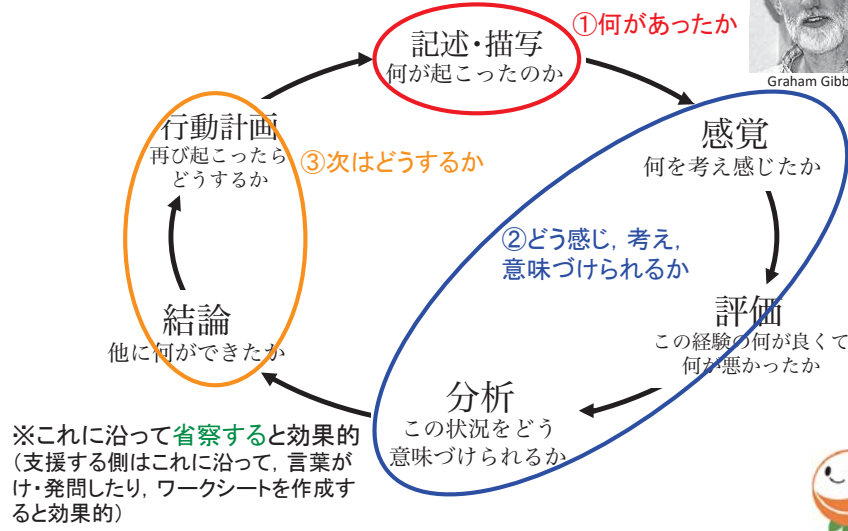
- 振り返ることがなければ、教訓を引き出したり、新しい状況に適用したりできない



20

振り返りのサイクル

ギブス(1988)のリフレクティブ・サイクル



21

体験学習を深めるには

- 体験学習を深めるには...振り返り(リフレクション, 省察)が不可欠
- 振り返りがなければ、体験しても通りすぎ、学習につながらない
- 振り返ることがなければ、教訓を引き出したり、新しい状況に適用したりできない



22

振り返りを深めるには A

- 振り返りは、①何があったか、②どう感じ、考え、意味づけられるか、③次はどうするか、と進んでいくが、
- 体験は直接的で印象深いため、
 - なかなか言葉になりにくい
 - 文字にもなかなか起こしにくい
- A: 振り返りを深めるには、意識してじっくり考えたり、人と話してみたりするとよい



23

振り返りは、意識してじっくり考えたり、人と話してみるとより深まる

- 毎日少しでもその日の体験を省察してまとめてみよう
 - 記録、日記、ボイスメモ
- 人と話してみるとより省察は深まる
 - 人に伝えるために、自分の体験と考えをまとめることでまず深まる
 - 自分にはない視点を得られてより深まる(専門が違うとなお)
 - 承認されてまたがんばれる
- グループワーク、リフレクションの時間を活用しよう
 - 自分でまとめてみて、チームで語ろう、みんなで共有しよう
 - あなたの体験からの学びが、人の気づきを生むことも多いです
 - (やりっぱなしだとせっかくの体験がもったいない)



24

体験学習をめぐる大前提

1. 体験は学習者のもの: 個人によって意味が異なる
 - (学習することも, 実はそれぞれの人によって幅がある... これまでで学んできたこと, 思っていることで学べるものが違う:「経験の連続性」)
 - 教員, 指導者が, 学生, スタッフに学ぶべきものはこれ以外にはないと押しつけてはいけない... それぞれに感じることに, 大切に思うことには幅がある
2. 体験を通して, その学生, スタッフがわかる(できる)ようにならないと意味がない
 - 手取り足取り全部やってあげない(その学生, スタッフの学ぶ機会を奪っている)

→教員, 指導者の自己満足になってはいけない!



25

見守る, 支援するという視点が大切

はじめに何をやるかの説明や, 最後のまとめは必要だが, 活動中は, 見守る, 支援するという視点が大切になる

・コリンズらの認知的徒弟制

1. モデリング(modeling)	学習者が観察できるように熟達者が作業を行う(<u>手本を見せる</u>)
2. コーチング(coaching)	学習者が作業している間, 熟達者がその様子を観察して <u>助言を与える</u>
3. スキャフォールドイング(scaffolding) <u>足場がけ</u>	学習者が作業をやり遂げることができるよう熟達者が支援する(<u>自分で初めから最後までやらせてみる</u>)
4. フェーディング(fading)	次第に支援を減らしていく。(<u>自分でできるように</u>)

出所: Collins et. al. (1989). をもとに作表

- ・ その学生, スタッフがわかる(できる)ようにならないと意味がない



26

しっかり計画する...学習者のためのものを

1. 何のためにその活動をするのか: **目的**
 2. 活動を通して何ができるようになるか: **目標**
 - 学生たちにできることか, 難しすぎないか
 3. できたかどうかどう判断するか: **評価方法**
 - 学生たちの反応, 感想, 成果物
 4. どのような活動をするか: **内容**
 - 具体的スケジュール(導入, 展開, まとめ), 事前・事後学習(レポート, 発表)
 5. 何が活用できるか: **教育資源の確認**
 - 道具, 教材, 施設, 人, お金
 6. **どんなリスクがあるか: リスクの確認と対応案**
 - 危険なこと, 気をつけないといけないこと, どう対応するか
- ↑しっかり計画してから準備(教材作成, 連絡・相談, 調整)



27

体験学習の計画を立ててみましょう

地域のみかん農家での農業体験(秋の収穫)

- ・ 学生5名を引率, 1時間半程度の活動
- ・ 目的: 農業体験を通し, みかん栽培の現状, 地域農業の現場を知る
- ・ 10分 ワークシートを参考に, 一人で計画
- ・ 10分 グループで共有: こんな計画を立てた
- ・ のち, 各グループにどんな内容が出たかを報告していただきます



28

振り返りを深めるには B

- 振り返りは、①何があったか、②どう感じ、考え、意味づけられるか、③次はどうするか、と進んでいくが、
- 体験は直接的で印象深いため、
 - なかなか言葉になりにくい
 - 文字にもなかなか起こしにくい(ワークシートの工夫で対応)
- B: 振り返りを深めるには、発問がとくに重要になってくる



29

発問とは

- 教員、指導者の言葉
 - 説明、指示、**発問**
- 発問
 - 指導者が学習者に対して行う教育的な意図をもった問いかけ。問いかけることで、興味を喚起したり、発想を広げたり、思考を深めさせたりすることができる

※問われると、人は考える

- 体験学習においては、学習者の気づきを促したり考えを整理したりするために「発問」を意図的に活用することが重要



30

発問の種類

- ウォームアップの発問: 興味喚起...導入
- **考えを深める発問**...展開(振り返りの最中)
 - 主発問
 - (補助発問)
 - 焦点化、切り返しの発問
 - ゆさぶり発問
- 学習内容を定着させる発問: 記憶強化...まとめ



31

考えを深める発問: 主発問

主発問: もっとも学生に考えてほしい内容

- 「地域農業の現状について考えてみましょう」
- 「みかん農家の大変さややりがいについて考えてみましょう」



32

考えを深める発問: 焦点化, 切り返し

焦点化: 思考の観点を絞っていく

- 「みかん美味しかった?」「お話聞いてまずどう感じた?」「みかんの収穫やってみてどう感じた?」「どんな作業が一番大変だと思った?」
→話題の焦点化

切り返し: 相手の発言を聞き返し, より言語化

- 「それってどういうこと? もうちょっと詳しく教えて」
→内容を具体化
- 「どうしてそう考えたの? そうしたの?」
→理由や根拠を明確化



33

考えを深める発問: ゆさぶり発音

思考を「ゆさぶる」: もう一度大事なところを考えてもらう

- 「農家の方はそう思ってるのね。あなたはどうか? 自分が農家だとしたら? お客さんとしたら?」
→視点・立場を変えさせる
- 「ほんとうにそれでいい? 他にこういう考え方もあるんじゃない?」
- 「私だったらこうしてほしいなあ...あなたは思う?」
→わざと違う立場で意見を述べる (深めるため: 壊すためじゃない)



34

発問の使い分け

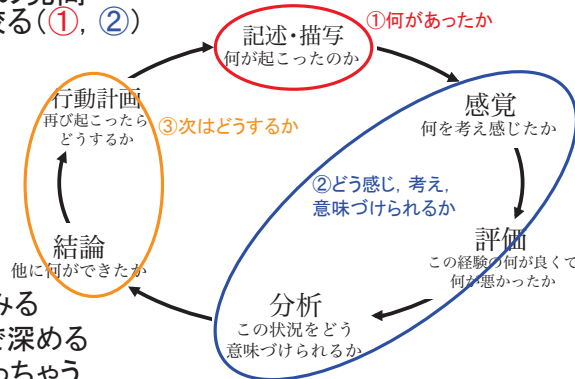
場面に応じて

考えを深める発問

- 主発問...振り返りの導入 (①) テーマは全体を流れる
- 焦点化, 切り返しの発問
...思考の観点を絞る (①, ②)
- ゆさぶり発問
...もう一度大事なところを考えてもらう
(②後半, ③)

学生の状態に応じて

- 発問の言葉を換えてみる
- 拙速すぎると焦点化で深める
- ゆさぶりすぎるとまよっちゃう
- 出ない場合は待つことも大事



35

まとめ(到達目標の確認)

- 体験学習の概念を説明できる
- 体験学習の過程を説明できる
- 成長を促しやすい体験を説明できる
- 体験学習を支援し促す視点と方法を説明できる



36

もう一度 このプログラムのねらい

より効果的に体験学習が行えるよう、学生やスタッフの体験からの学習が支えられるよう、

- 体験学習の基本的な考え方や、
- 具体的な支援の視点や方法をおさえることができる機会になれば

- …今回のお話やワークは役に立ちましたか？
- …長い間おつかれさまでした！
- …一緒にワークした仲間に拍手を！



参考文献

- Collins, A., Brown, J.S., & Newman, S.E. (1989) Cognitive apprenticeship: Teaching the crafts of reading, writing, and mathematics. In L. B. Resnick (Ed.) *Knowing, learning, and instruction: Essays in honor of Robert Glaser* (pp. 453-494). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Dale, E. (1969) *Audio-visual Methods in Teaching* (3rd ed.) (1946), Dryden Press, Holt, Rinehart Winston, Inc.
- Gibbs, G. (1988) *Learning by Doing: A guide to teaching and learning methods*. Further Education Unit. Oxford Polytechnic.
- 浅川希洋志 (2012)「楽しさと最適発達現象学: フロー体験」鹿毛雅治編『モチベーションをまなぶ12の理論』金剛出版, 161-193.
- 国立青少年教育推進機構HP
<http://www.niye.go.jp/navi/handcraft/bamboo/>
- 高橋平徳・内藤知佐子他(2019)体験学習の展開(看護教育実践シリーズ5). 医学書院.

